

# 目白図書館 月刊情報誌

# 10 We 2017

[ウィー]  
hite ye



10月

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2 (休)	3	4 ☺☀	5	6	7
8	9	10	11 ☀	12	13	14 🎵
15	16	17	18 ☀	19	20	21 🎵
22	23	24	25 ☀	26 🎵	27 (休)	28 🎵
29 🎵	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1 ☺☀	2	3	4
5	6 (休)	7	8 ☀	9	10	11
12	13	14	15 ☀	16	17	18 🎵
19	20	21	22 ☀	23	24 (休)	25
26	27	28	29 ☀	30		

- ☀ マークのついている日はあいうえおはなしかいです。(15時からB1 集会室にて)
- ☺ マークのついている日はあかちゃんおはなしかいです。(14時からB1 集会室にて)
- 🎵 マークのついている日はスペシャルイベントがあります。

## 豊島区立目白図書館

〒171-0031 豊島区目白4-31-8

☎03-3950-7121

### ●開館時間●

平日 9:00~20:00

土・日・祝日 9:00~18:00

### ●休館日● (第1月曜日・第4金曜日)

【10月】2日(月) 27日(金)

【11月】6日(月) 24日(金)



「赤い鳥」創刊100年

## 豊島区で誕生した『赤い鳥』

『赤い鳥』は、1918年（大正7年）、主幹・鈴木三重吉の手により豊島区目白で誕生しました。童話・童謡・詩を扱った本格的な児童文芸誌で、北原白秋、芥川龍之介、菊池寛らそうそうたる文芸人が関わり、また新美南吉、坪田譲治など現代児童文学の礎となる作家を輩出しました。来年がちょうど創刊100年となることで、児童文学界ではさまざまな記念行事が予定されています。

そこで今回は、『赤い鳥』に関する資料をご紹介します。

『赤い鳥』（復刻版）通巻1号～196号 鈴木三重吉／主幹 日本近代文学館

『赤い鳥』と鈴木三重吉 赤い鳥の会／編 小峰書店

赤い鳥翔んだー鈴木すとと父三重吉ー 脇坂るみ／著 小峰書店

「赤い鳥」の時代ー大正の児童文学ー 桑原三郎／著 慶応通信

子ども観の近代ー『赤い鳥』と「童心」の理想ー 河原和枝／著 中央公論社

こどもの再発見ー豊島の児童文化運動と新学校ー 豊島区立郷土資料館編

きょうか しょぼん よ

## 教科書本を読もう！

『アンジュール』 ガブリエル・バンサン／作

ねんせい こくご けいさい  
ー5年生 国語 掲載ー

文字なし絵本はお好きですか。文字がないことで内容が限定されないため、より個人的な世界を堪能できます。例えば、ディヴィット・ウィズナーはかなり複雑なお話でも文字なし絵本でユーモアを交えて魅せてくれます。

さて今回取り上げる本は、ベルギー生まれの画家・絵本作家ガブリエル・バンサンの代表作の1冊。画家として活躍していた彼女が絵本を出版するのは50代に入ってからです。10代の美術学校時代に日本の水墨画に影響を受けたという彼女は、この作品で、余白を大胆に使い、卓越したデッサン力による、ゆるぎない筆致のみで悲しい犬の物語を綴ります。迫力のある線と想像力を刺激する空白の魔力に導かれ、私たちはいつか、風、空の色、犬の熱い息をも感じるようになるでしょう。さあ、あなたも孤独な犬の魂のふるえを、その手で、目で感じてみませんか。

## 【今月の特集展示】

### 一般コーナー 「世界の祭り」

秋といえば、お祭りの季節。世界中のいろいろなお祭りの本を集めました。

### YAコーナー 「図書館で、読む、知る、音楽。」

読書の秋×芸術の秋。

読んで知る！ 音楽についての知識を深めよう！

### じどう 児童コーナー 「<sup>あき</sup>秋といえば…」

おいしい秋の味覚、キレイな<sup>つきさま</sup>お月様、

たの<sup>うんどうかい</sup>しい運動会・・・

きみは、なにを<sup>おも</sup>思いうかべるかな？



### 【館長だより ～めじろの森から～】

夏らしくなかった今年の夏。しかも逃げるように去っていき、季節はいきなり秋へと切り替わりました。目白の森では、いろいろな植物が実をつけ始めています。小屋の前の柿の木には、こずえの高いところに少しだけ育った実が色づいてきています。日差しは暖かくても森を抜ける風は少しひんやりし、不快な虫も減っていますので、今は散策やお屋の休憩にとても気持ち良いスポットになっています。

10月1日、豊島区立郷土資料館がリニューアルオープンしました。池袋消防署の隣、以前は勤労福祉会館と言っていた建物がまるごと改装され、「IKE・Biz としま産業振興プラザ」という、ちょっとおしゃれなビルに生まれ変わりました。その7階に郷土資料館は入っています。資料館という言い方はカタいですが、豊島区の歴史をパネルやジオラマ展示で解説したミニ・ミュージアムです。知らなかった昔の「トシマ」の姿を、ぜひ見に行ってください。